

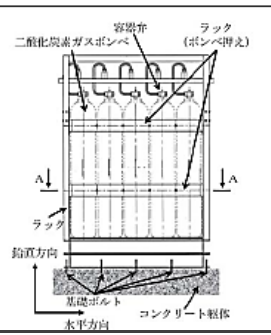
主な補正内容

<記載内容の充実の例>

前回（平成27年2月2日）補正時	今回（平成27年4月15日）補正時
<p>【基本設計方針】</p> <p>燃料取扱建屋クレーンは、<u>その移動範囲を重量物の落下により使用済燃料ピットに影響を及ぼすことのないように限定した設計とする。</u></p>	<p>【基本設計方針】</p> <p>燃料取扱建屋クレーンは、<u>使用済燃料ピットの上部に走行レールが無く、建屋の構造上、吊り上げられた使用済燃料輸送容器等重量物が使用済燃料ピットへの落下物とならない設計とする。</u></p> <p><従来の記載に設備の詳細な設計の記述（下線部）を追記></p>
<p>【設定根拠に関する説明書】</p> <p>1次冷却材ポンプは、<u>_____ 1次冷却材を1次冷却系ループ内で循環させ、蒸気発生器を介して炉心から発生する熱を2次系に伝達するため設置している。</u></p>	<p>【設定根拠に関する説明書】</p> <p>1次冷却材ポンプは、<u>設計基準対象施設として蒸気発生器を出た1次冷却材をポンプケーシング底部の1次冷却材吸込管から吸い込み、回転軸下部に取り付けたインペラによって揚水し、ケーシング側部の1次冷却材管から吐出し、1次冷却材を1次冷却系ループ内で循環させ、蒸気発生器を介して炉心から発生する熱を2次系に伝達するため設置する。</u></p> <p><従来の記載に設備の詳細な構造の記述（下線部）を追記></p>

<耐震評価に関する資料の充実の例>

○設備を構造ごとに整理して詳細に説明

設備名称	計画の概要		説明図
	主体構造	支持構造	
【位置】 二酸化炭素消火設備（ディーゼル発電機室）ポンベ設備は、火災の火炎、熱による直接的な影響のみならず、煙、流出流体、断線及び爆発等の二次的影響を受けず、火災防護上重要な機器等及び重大事故等対処施設に悪影響を及ぼさないよう、消火対象空間とは別のエリアに設置する。	二酸化炭素ポンベ 容器弁（遠隔操作型）	容器弁は二酸化炭素ガスポンベにねじ込み固定する。二酸化炭素ガスポンベはラックに固定し、基礎ボルトによりラックを建屋床のコンクリート躯体に据え付ける。	

○耐震評価のフローを追記

```

    graph TD
      A[標準地震動 Ss による地震力に対する機能保持] --> B[解析モデル設定]
      B --> C[固有値解析]
      D[減衰定数] --> C
      E[標準地震動 Ss] --> C
      C --> F[Ss に対する地震応答解析]
      F --> G[地震時荷重]
      
```

○記号の定義を一覧表で整理して追加

記号	単位	記号の定義
d	mm	ボルト呼び径
g	m/s ²	重力加速度
h	mm	ボルトより機器重心までの鉛直距離
h_1	mm	鉛直方向のボルト間距離
l	mm	壁面より機器重心までの水平距離
l_1	mm	水平方向のボルト間距離
l_{g1}	mm	支点よりのボルト間距離（前後方向）
l_{b1}	mm	支点よりのボルト間距離（左右方向）
h_g	本	各列のボルト本数
N	本	ボルト総数
S	mm ²	ボルト断面積
W	kg	機器質量
a_{gr}	G	水平加速度
k_y	G	鉛直加速度
σ_{g1}	MPa	各ボルトに発生する引張応力（前後方向）
σ_{b1}	MPa	各ボルトに発生する引張応力（左右方向）
σ_{gmax}	MPa	最大引張応力（前後方向）
σ_{bmax}	MPa	最大引張応力（左右方向）
τ_g	MPa	各ボルトに発生するせん断応力（前後方向）
τ_b	MPa	各ボルトに発生するせん断応力（左右方向）

（その他）

- 荷重の組合せの考え方に
関する表を追加
- 評価に使用する諸元を
一覧表で整理して追加
- 評価プロセスを詳細に記載 等